

宍道湖の令和4年度水質測定結果及び水質浄化対策推進状況

1. 令和4年度水質測定結果について

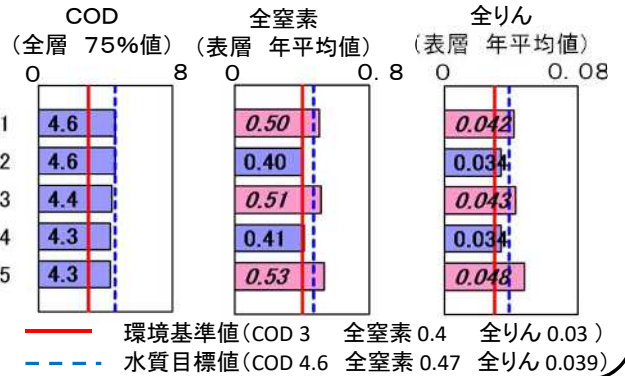
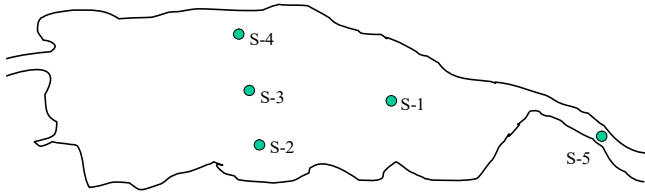
(1) 環境基準等の達成状況について

- 環境基準点5地点における水質測定結果は、COD(化学的酸素要求量)、全窒素及び全りんについて、いずれの項目も環境基準未達成(図1-1、図1-2)
- 第7期湖沼水質保全計画の目標水質について、CODは目標達成。全窒素及び全りんは未達成(ただし、全窒素及び全りんともに2地点で目標値を達成)
- 平成22~24年度に3年連続してみられたアオコの大発生は、令和4年度はなかった。

図1-2. 宍道湖の環境基準点の測定結果

単位:mg/l

図1-1. 宍道湖の測定地点図

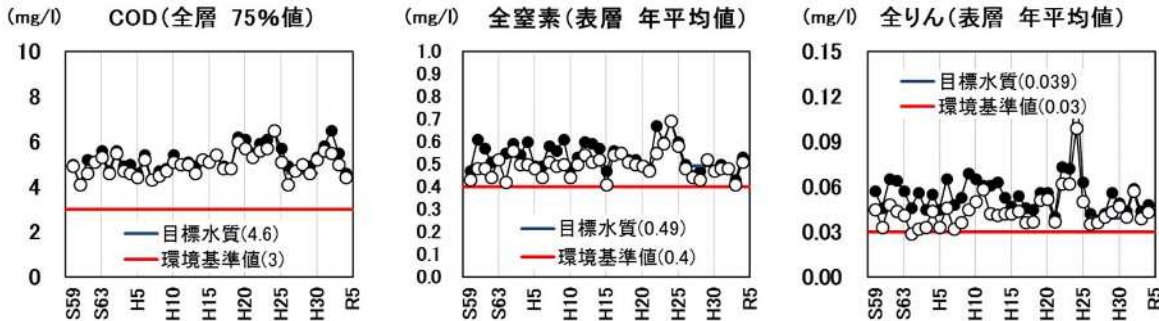


(2) 経年変化について

OCOD、全窒素及び全りんについて、最高値・湖心とも過去の変動範囲内で推移した。

図1-3. 宍道湖の水質の経年変化

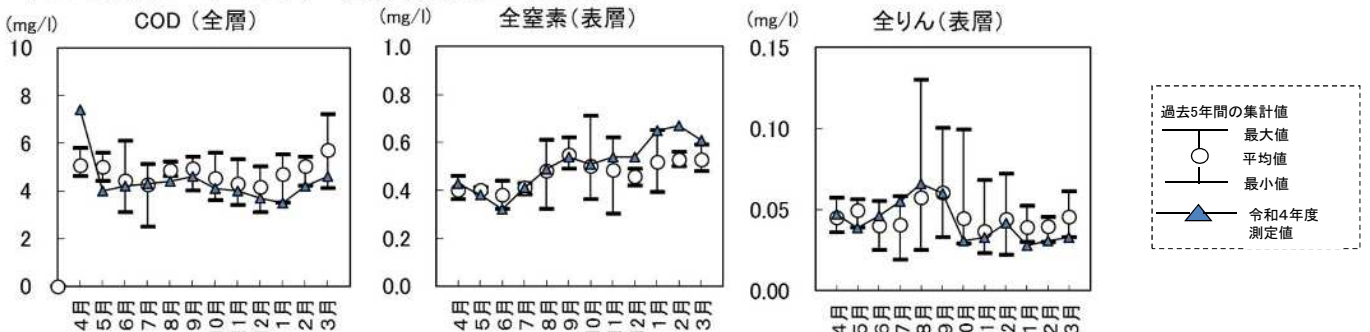
● 最高値
○ 湖心



備考:「最高値」とは、環境基準点のうち、各年度において最も高い地点の値。

【参考1-1】経月変化(湖心 S-3)

図. 宍道湖湖心における令和4年度水質測定値の経月変化



【参考1-2】令和4年度の気象状況

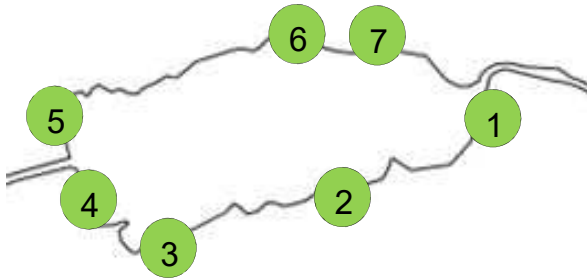
- 年平均気温(松江)は16.1℃で、平年値(15.2℃)より高かった。
- 年間降水量(松江)は1429.5mmで、平年値(1791.9mm)より少なかった。
- 年間日照時間(松江)は1936.1時間で、平年値(1705.2時間)より長かった。

2. 長期ビジョンの実現に向けた指標について

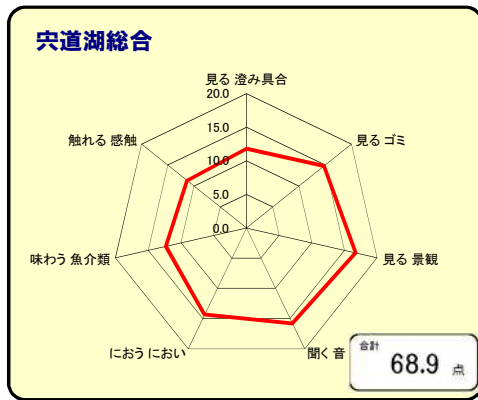
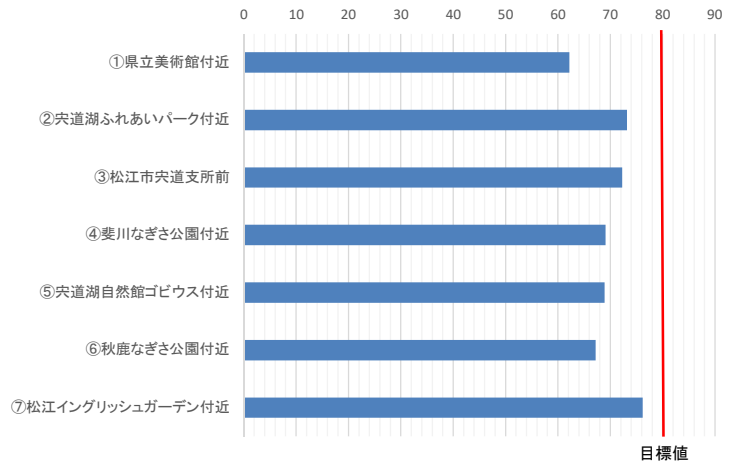
(1) 五感による湖沼環境調査結果について

- 住民に親しみやすく分かりやすい環境指標として「五感による湖沼環境調査」を7地点で実施（図2）
- 令和3年10月～令和4年9月期は地域住民がモニターとして46名、1団体が参加
- 令和3年10月～令和4年9月期は平均が68.9点、目標とする80点以上の地点はなかった
- 経年変化を見ると、得点は概ね横ばい

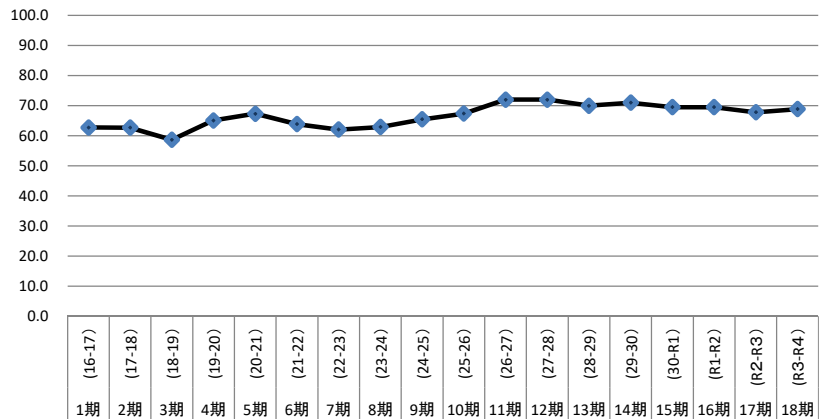
図2 調査地点



各地点の得点(期間平均値)



五感指数の経年変化(宍道湖総合)



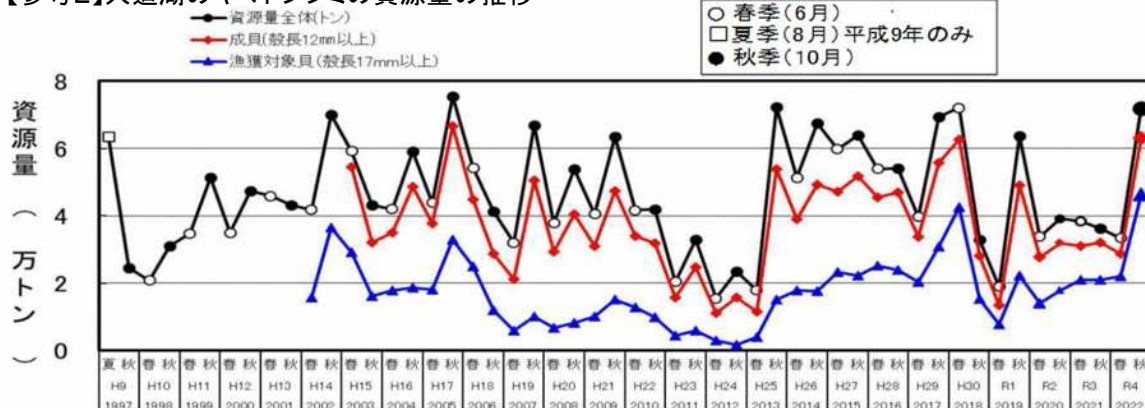
■五感による湖沼環境ランク表

合計点数	ランク	評価内容
80点以上	A	おおむね良好で親しみやすい環境にあると感じられる。
50点～79点	B	やや気になる面があるが、ますます良好な環境であると感じられる。
49点以下	C	快適さに欠け、親しみにくい環境にあると感じられる。

(2) 生物生息環境による評価について

○宍道湖の象徴的存在であるシジミ(ヤマトシジミ)をはじめとする汽水域の生物が安定的・持続的に生息するような生物生息環境を目指す

【参考2】宍道湖のヤマトシジミの資源量の推移



島根県水産技術センターの調査結果より

3. 湖沼水質保全計画の進捗状況について

水質改善に取り組む為、平成元年から湖沼水質保全計画を定め、国、県、関係市町、流域住民、NPO、事業者等が連携して、各種施策を推進している。第7期湖沼水質保全計画(R1～R5年度)において、令和5年度までに達成すべき目標を定めている各種施策は、概ね計画どおりに進捗している。

図3-1. 生活排水処理施設の整備状況

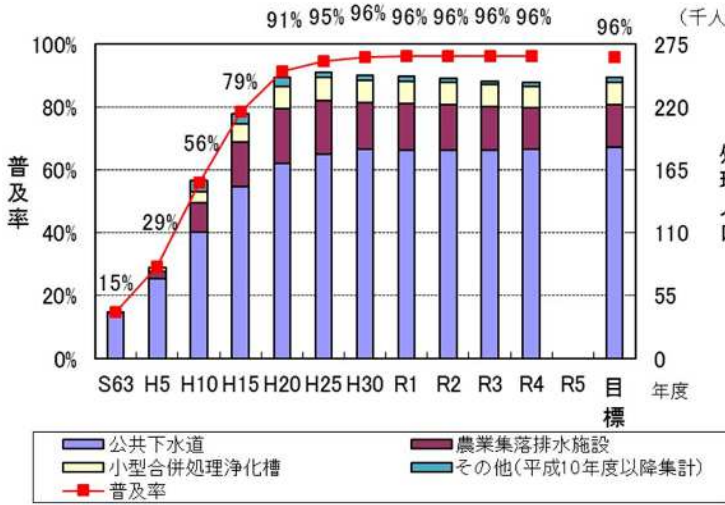
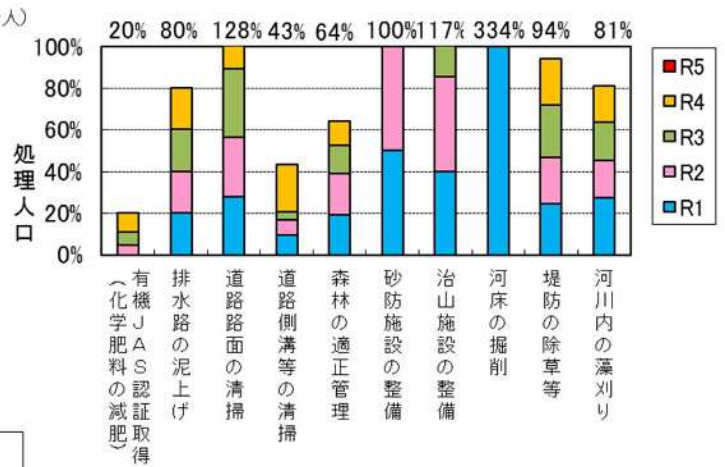


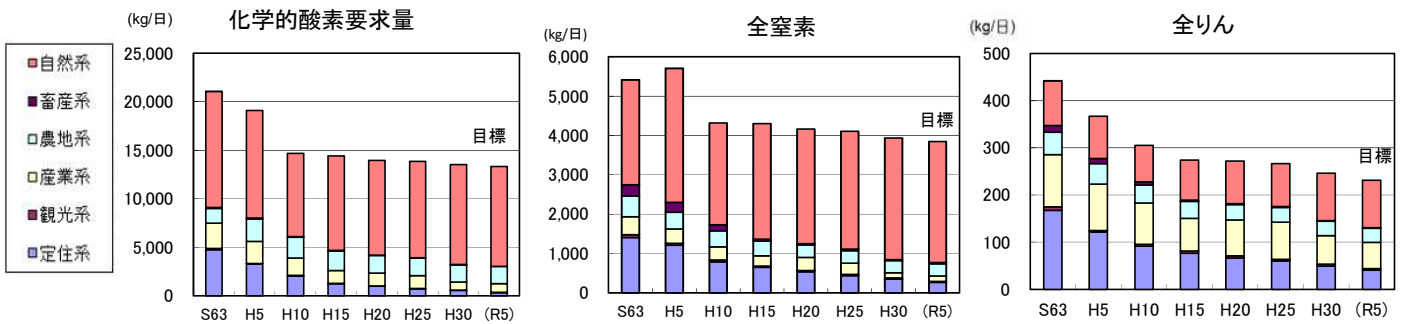
図3-2. 各種施策の進捗状況 (注1)



注1) 令和5年度までの累計目標事業量を100%とする。

参考

参考3-1. 央道湖に流入する汚濁負荷量の推移



参考3-2. 央道湖に流入する主な河川(斐伊川、山居川)の水質

